

岡山大学附属図書館報

OKAYAMA UNIVERSITY
LIBRARY BULLETIN

NO. 22

1995
NOVEMBER

岡山大学附属図書館の機能充実を継続させて

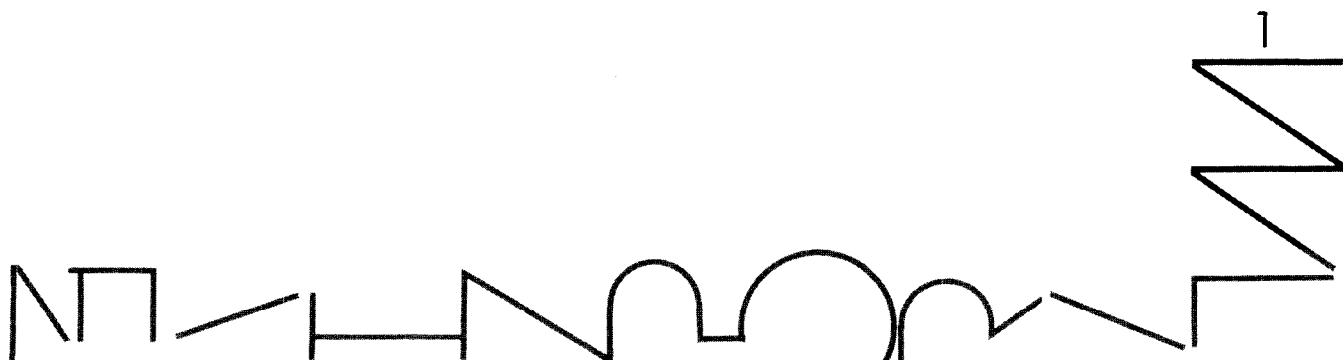
— 館長に就任して —

岡 部 喬

緒 言

私が好並先生の後を承けて図書館長に就任してから既に半年が経過しました。その間任務の重さと共に前任者の秀れた構想力と見通しのお陰で、自分が甚だ幸せな継承者であることを知りました。具体的に列挙すると、1) 収書計画は200万冊を目標として与えられていたことと、2) 電子図書館化への発展を目指されていたことなどです。現に学内LANの完成に伴い、CD-ROMサーバの利用申請は毎日届いています。情報検索も現在のNetWare方式からUNIX方式への移行が示されていました。ただ、図書館員と予算の増加は思惑通りにゆかないのは他の分野と同じです。

以上のプランに基づいた新館の建築工事は9月より着工されており、私の任期一杯で完成します。その他、地域社会への公開は他大学より一歩前進しています。従って、私の任務はこれらの目標を円滑、確実に実現することであり、私の在任中に変更すべきこと、付加すべきことは何一つないであろうと思っています。そして私も前任者同様に秩序立った形で次の館長にバトンを渡したいと願っています。



1 大学図書館のレゾン・デートル

どんな図書館でもそれが置かれているコミュニティによって、そのあり方が規定されるのは理の当然です。もしも大学が専ら学生の教育のみで、それも教科書とその復習を中心とするなら、大学としては学生教育のために図書館を必要としないでしょう。大学図書館は単なる〈飾り〉にとどまります。そもそも大学は「学術の中心として」、「深く専門の学芸を教授研究」（学校教育法第52条）する機関として、「国民全体に対して直接に責任を負って」（教育基本法第10条）いるのです。大学のあり方がこのように規定されている以上、大学の附属図書館の機能もそれに従わざるを得ません。

よく利用者側から聞かされる不平の一つである、目録に載っていて、図書館になくて、先生方の研究室・資料室に貯えられているという実態も、私としては大学の機能の大きな柱が研究であり、先生方が自らの研究費で購入された必要資料を手元に置かれるのは当然であっても、終極の所有権をもつ図書館に、当面の必要度が薄くなり次第、収めてくださいとお願いするのみです。

ともかく附属図書館は大学というコミュニティの中で果たすべき機能を展開してレゾン・デートルを確立してゆかねばなりません。図書館側がその努力を怠ったり、見通しを誤ったとき、コミュニティ側から非難または無視されるでしょう。いったん確立したレゾン・デートルも、停滞してコミュニティの発展に応じる自己改革を続けなければ、失われてしまうことを我々は知っています。

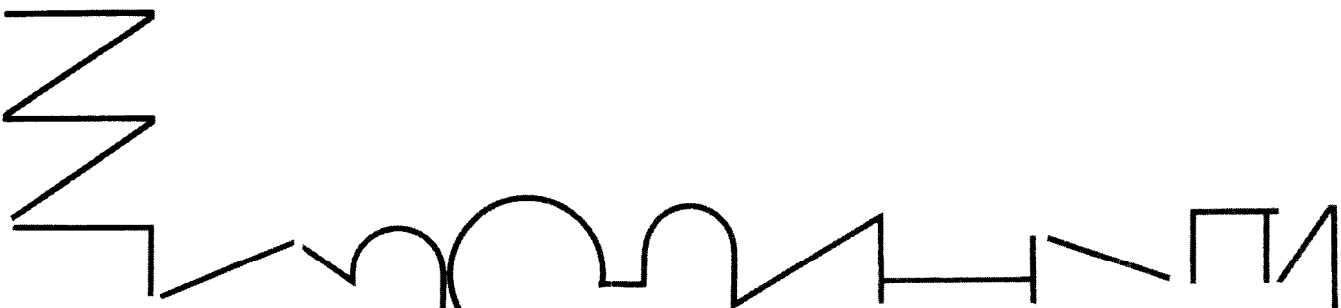
それにしても、ここ10年間のメディアの進歩は急速で、追従し難しくなっています。他方、収書状態は従来通り緩やかに、〈塵も積もれば〉式にスペースを占めてゆきます。私たちはこの緩急両面を同時併行して偏りなく捌いてゆかねばなりません。そして利用者サービスのための試みも、先ず成果をお見せしてから理解を求めるのが説得力のある手順かもしれませんが、それも先立つものがなくてはできないという辛さがあります。

2 地域社会への開放

先に大学は教育基本法にあるように、国民のために存在していることを述べました。これを換言すると学問は決して大学だけの専有物ではなく、国民全体のものであることを意味しています。そうあってこそ学問の自由が保障されているといえます。学問の自由は大学人のみの特権ではなく、市民社会における基本的人権に属し、その自由は国民の生涯を通じて保障されなければなりません。

これを拠り所とした大学開放の圧力がここ20年来国民の生涯学習の必要から強くなってきています。これに伴い大学図書館の公開も開放の一部として必然的に要求されるようになりました。国立大学に対しては財源が国民の税負担によって成立しているだけにこの要求は強くなっています。国立大学図書館協議会が1986年9月に提出した報告書には「社会的状況の急速な変化、進展の中で、大学図書館がこれまでのように一般社会からの要求に対して消極的姿勢をとり続けることはできない」と述べ、今日までの大学図書館の公開が社会の要求による受け身の立場であることを示しています。

この受け身の公開は今まで大きく分けて3つのケースで行われてきました。先ず第1が公共図書館の不十分な整備状態を補う意味での公開、第2が異種図書館間の相互協力のための公開、第3が大学図書館に余力があれば公開するというあいまいさを含んだ考え方で



す。これらに対して現代の公開要求は一国の、いな全世界の学術研究、文化発展に寄与し、地域の住民の生涯学習にサービスするためという観点からの公開論です。そのためには、大学図書館側は公開のための法規を制定し、司書の配置も考慮するといった条件整備が必要となります。

大学図書館公開のためには、この体制の整備以前に公開論の論拠を明確にする必要があります。私が見るところ、公開論はいまだ論理としてあいまいであり、圧力に対する受け身の姿勢で応ずるもので、それも余力があればの底意が仄みえています。今日なされている公開論は大学開放の一部、一環としての図書館の公開という積極的な論理です。大学が閉鎖的に特権的な教育・研究の自由を許されていると考えられてる人は少なくなってきました。例えば今年度岡山大学内に開設された〈放送大学岡山地域学習センター〉に入学した中高年層の人たちの多くが人間としての自己充実を目指しておられ、大学図書館も当然のこととしてこの人たちの生涯学習に貢献する約束を結んでいます。この場合の公開も国民の学問を保障するという積極的な論理に基づいています。

(おかべ・たかし 附属図書館長)

新館建築計画始末記

東 海 安 興

はじめに

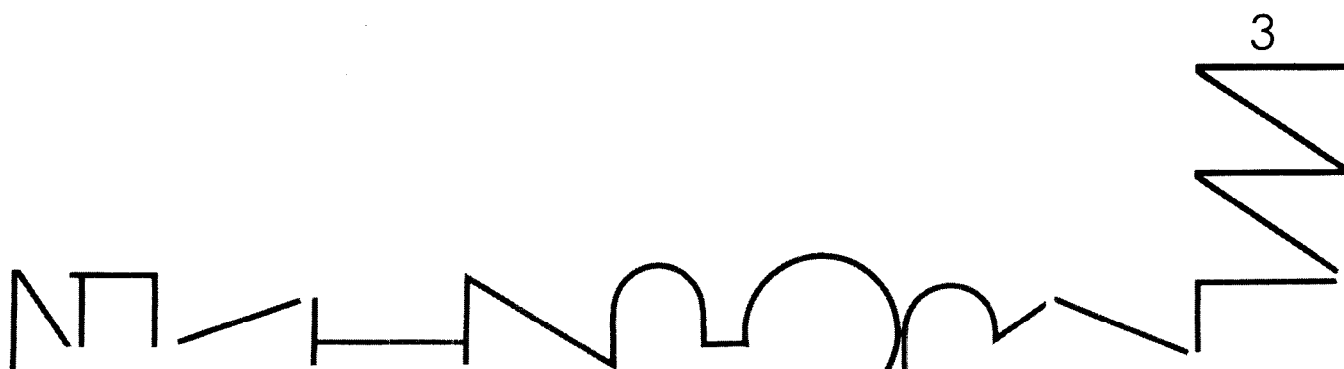
本学において、待望の図書館新営工事が9月中旬から始まった。完成は平成9年3月の予定である。新営工事の概況は次のとおりである。

構造：鉄骨鉄筋コンクリート造り 階数：地上6階建
建築面積：1,600m² 延面積：8,668m² 全体工期：約18.5ヶ月

既設面積7,418m²と合わせて16,086m²となり、津島地区における面積基準をほぼ満たすことになった。

着工までの経過

これまで歴代の本学関係者は新図書館構想について、鋭意検討を重ねてきた。その叡智の結晶である「岡山大学新中央図書館構想、マスタープラン（1993年版）」が平成5年6月に就任された小坂学長のもとで集約された。学長の基本方針として教育・研究の環境整備が重点項目にあげられ、新図書館新営が現実化された次第である。マスタープランの骨子は本誌の『楳』(No.19,1994年)に提言されているところである。(1)学習、研究図書館機能の整備、(2)ニューメディア等への対応、(3)地域社会への公開、(4)貴重資料の保存図書館機能、(5)アメニティ（ゆとり）への配慮、が主な内容である。このように学生に快適な利用ができること、及び研究者には最新の学術情報の発信基地として電子図書館化を視野においた施設化を目指している。



新館各階の諸機能

次に各階の諸機能について簡単に紹介する。

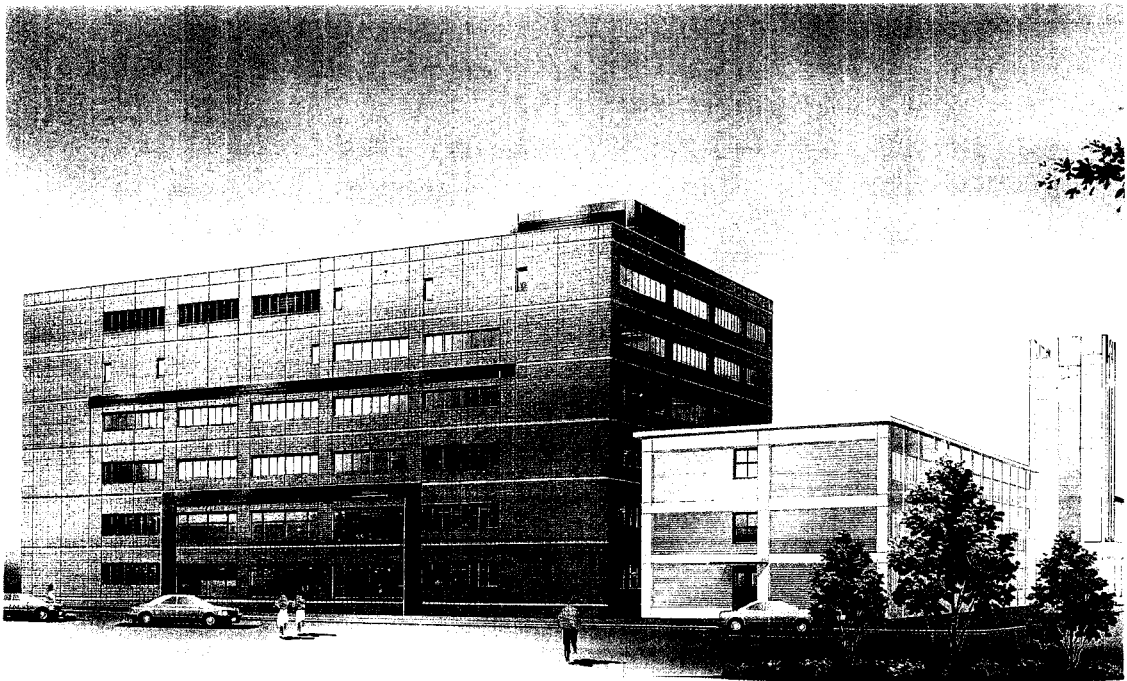
- | | |
|---------------------|----------------|
| 1階：ニューメディア・参考図書コーナー | 2階：雑誌閲覧室 |
| 3階：人文・社会科学系図書閲覧室 | 4階：研究用図書閲覧室 |
| 5階：貴重資料及び常設展示室 | 6階：保存書庫（6階の一部） |

となっている。既設部分と新館部分の有機的機能性を持たせるために、既設部分の改修も必要となり、今後一時期には全面的に不便をおかけすることになるかもしれない。

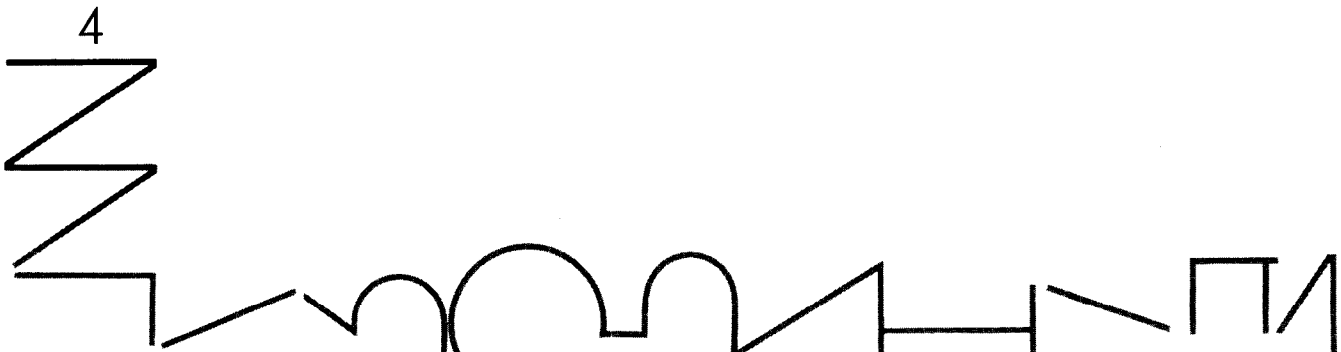
終わりに

はなはだ簡単な紹介となったが、詳細は今後報告の機会があると思うので、最後にこのことに関わりあってきた筆者の感想を述べたい。筆者が本学に着任した年の平成5年6月頃から新営工事の要求のための検討に携わることになり、10数回にわたり施設部と実務打ち合わせを行った。協議するなかで、ハードウェア的側面を受け持つ施設部の意見と、利用者へのサービス機能を活かすためのソフトウェア的側面を受け持つ図書館の意見が食い違う場面も多々あったが、辛抱強く、当方の意見に耳を傾けてもらったことに深く感謝している。完成予想図にある図書館が現実に出現する日を一日千秋の思いで待っているのは筆者だけではなく本学関係者の一致した思いであろう。

(とうかい・やすおき 情報管理課長)



新館建築予想図



大学図書館職員長期研修に参加して

川上 研三

去る7月10日から7月28日まで、大学図書館職員長期研修に参加してきました。北は北海道から、南は沖縄まで全国から41名が参加しました。構成は男性26名、女性15名で、その中で国立が33名、公立が1名、私立が7名でした。

前半は、国立オリンピック記念青少年総合センターを宿泊所として、学術情報センター、早稲田大学総合情報センター、東京工業大学附属図書館、国立国会図書館の見学と講義が行われ、後半は筑波地区に移動し、図書館情報大学での講義、筑波大学附属図書館の見学が行われました。毎日、日常業務に追われていると、マンネリ化してしまうので、今回の研修には大変期待していましたが、その期待に違わない実り多いものでした。

内容は多様なものでしたが、電子的情報に関するものが中心となっていました。受講生の中で e-mail のアドレスを教え合う姿が多く見られたように、インターネットの話題が多く聞かれました。その中で印象に残っているのは、将来的には図書館の資料がほとんどインターネット上で読めるようになって現在の図書館機能は役割を終えてしまうということと、もう一つはカール・ベッカー先生の講義でした。先生は大学図書館をよく利用しており、役に立っているが、今後はインターネットを利用するなどして、より使いやすい図書館を目指してほしいとおっしゃっていました。これからの図書館は電子的情報を発信して生き残らねばならないでしょう。

研修ばかりでなく、東京という情報集中基地の空気に触れ、地方にいても情報過疎にならないように我々は努力せねばならないという気持ちになりました。

(かわかみ・けんぞう 資料運用係長)

第36回中国四国地区大学図書館研究集会に参加して

渡壁 辰巳

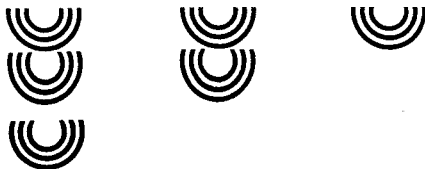
今年度の研究集会は中四国地区の国公私立37大学の55名参加のもとに岡山大学が当番館として、カルチャーホテルで9月12日～14日に開催された。

今回のテーマ「国際化と大学図書館サービス」について各館の研究発表、実情報告がなされた。特にWWWサーバシステムやAV資料によるサービスなど、図書館が情報の発信基地となる事例について参加者の大きな注目を集めた。普段、特に意識せず仕事をしてきたが、岡大にも400名弱の留学生が在籍している。彼らの眼に異国の地の大学図書館はどんな風に映っているのか聞いてみたい反面、評価の結果が怖くて聞かないでおきたい気もする。

この研究集会全体を通じて思ったのは、何らかの問題が起こったときにそれぞれの大学図書館でいろいろな工夫をされ、それを蓄積して、サービスを広げていっていること。それが仕事だから当たり前とってしまえばそれまでだが、その熱心さには頭が下がる思いの3日間だった。

(わたかべ・たつみ 資生研分館 情報管理係)





マスカット

NACSIS-IR から ILL の申し込みができます

8月から学術情報センターが提供する情報検索サービス(NACSIS-IR)システムで学外への文献複写・現物貸借(ILL: Inter-Library Loan)の申し込みができるようになりました。

研究室のパソコンからNACSIS-IRに接続し、「REQUEST」コマンドを入力することにより、図書館に出向かずにILLの申し込みができます。詳しくは附属図書館相互利用係にお問い合わせください。

学術情報センターの学術雑誌目次速報データベースへ登録開始

4月から学術情報センターのNACSIS-IRの学術雑誌目次速報データベースに、登録を開始しました。現在、岡山大学内で発行される7種の紀要の目次情報を登録しています。

インターネットに図書館の情報を公開しています

6月から総合情報処理センター内のWWWサーバに附属図書館のHome PageがOPENしました。現在は利用案内や図書館からのお知らせなどを載せていますが、順次内容も充実させていく予定です。

URL: <http://www.okayama-u.ac.jp/user/li/index-li.html>

また10月からは新着図書情報や池田家文庫絵図目録等のftpサーバによる提供も開始しました。WWWでも「図書館からのお知らせ」の項目で案内しています。ご利用ください。

鹿田分館CD-ROMサーバシステム運用開始

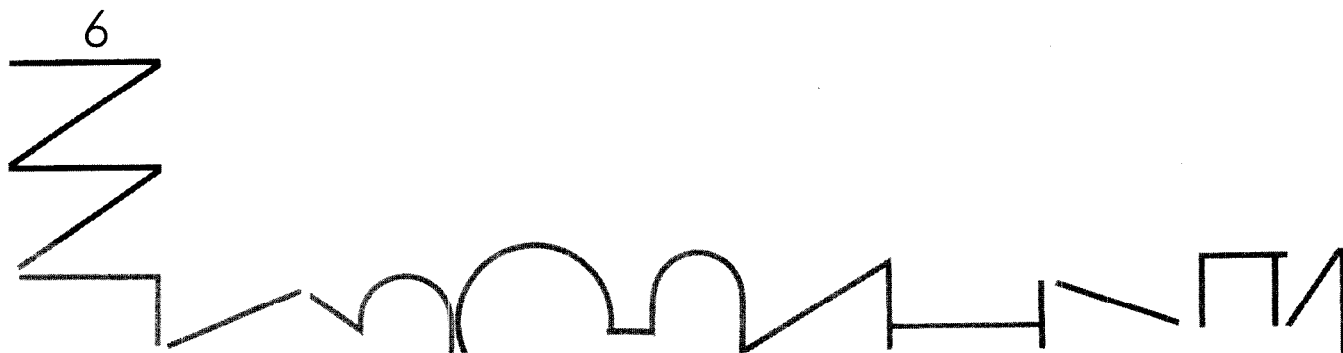
10月から鹿田分館では2階にパソコン4台を設置し、学内LANで中央図書館のCD-ROMサーバのデータベースが検索できるようになりました。利用時間は月曜日から金曜日の9:00~17:00で、予約や時間制限をせず自由に使えるようになっています。

資生研分館に情報検索コーナーを設置

資源生物科学研究所分館では4月に史料館1階に情報検索コーナーを設け、パソコン2台を設置しました。パソコンは学内LANにも接続され、教職員と学生の利用に供しています。今のところ、CD-ROMサーバ、インターネットへの接続による情報検索と、スタンドアロン方式によるCCOD(Current Contents on Diskette)の検索が可能です。将来的には、さらに周辺機器やソフトを充実させ、より多様な利用法も可能にしていく予定です。

放送大学岡山地域学習センター学生の附属図書館利用について

10月の放送大学岡山地域学習センター開所に伴い、センター学生の岡山大学附属図書館利用の取り扱いについて、申し合わせと利用要項が定められました。これにより、センター学生は岡山大学生に準じて図書館を利用できることになりました。



中央図書館オリエンテーション報告

中央図書館では今年も図書館オリエンテーションとCD-ROMガイダンスを行いました。
(**新入生オリエンテーション**)

期間：4月11日～4月28日 場所：中央図書館2階フロア

内容：パソコンによる図書館案内と目録の使い方 対象：新入生他

参加者は昨年より約90名多い394名となりましたが、全新入生数からみるとまだ少なく、もっとアピールが必要と思われます。

(**CD-ROMガイダンス**)

期間：5月10日～5月23日 場所：中央図書館2階情報検索コーナー

内容：CD-ROMの検索案内 対象：教官、大学院生、論文作成段階の学部生

こちらも参加者は28グループ、191名と昨年より増加しており、卒論対策として文献を探す学生達の真剣なまなざしが感じられました。ただ、CD-ROMは外国のデータベースが多く、日本語論文のデータベースが少ないことへの不満も寄せられました。

鹿田分館オリエンテーション、大学院セミナー開催

鹿田分館では4月11日に医短1年生(180人)、歯学部3年生(60人)、4月14日に医学部2年生(100人)、5月10日に医学部附属病院研修医(160人)を対象にオリエンテーションを実施しました。図書館利用案内、開館予定表等を配布し、開館時間、入館手続き、貸出、文献複写、相互利用等の図書館利用の基本的な手続きを20分程度で説明し、ロビー、閲覧室、書庫等の館内ツアーを行いました。

大学院生に対しては「図書館の利用法と二次資料の使い方」と題するセミナーを実施し、医学・歯学両研究科からそれぞれ12名、14名の参加を得ました。また、7月にはCD-ROM文献検索に限ったセミナーを行いました。

会議

◆学外

- | | |
|---|--|
| 4.27～4.28 第43回中国四国地区大学図書館協議会総会(於オークラホテル高松) | • 平成7年度事業計画について、その他 |
| • 中国四国地区大学図書館協議会加盟館間における相互利用手続きの簡素化について、その他 | 9.12～9.14 第36回中国四国地区大学図書館研究集会(於カルチャーホテル) |
| 4.28 第22回国立大学図書館協議会中国四国地区協議会(於オークラホテル高松) | • 国際化と大学図書館サービス |
| • 大学図書館の特色ある蔵書構成について、その他 | 10.5～10.6 第8回国立大学図書館シンポジウム(於大阪大学銀杏会館) |
| 5.26 平成7年度国立大学附属図書館事務部長会議(於お茶の水ホテル聚楽) | • 大学図書館における防災・安全管理と緊急事態への対応について |
| • 大学図書館の当面する諸問題について | 10.12～10.13 平成7年度国立大学図書館協議会中国四国地区協議会実務者会議(於高知グリーン会館) |
| 6.12 平成7年度岡山県図書館協会総会(於岡山県総合文化センター) | • 外国図書の購入契約について、その他 |
| • 平成7年度事業計画について、その他 | 10.25 平成7年度学術情報センターシンポジウム(於立命館大学) |
| 6.28～6.29 第42回国立大学図書館協議会総会(於如水会館) | • デジタル情報流通と学術コミュニティ |



◆学内

- 6.22 平成7年度第1回附属図書館運営委員会
 - 平成7年度図書館資料購入費配当予算額(案)について
 - 教育研究の活性化を図るための特別経費の要求について
 - 図書館資料整備について
 - 附属図書館中央館施設の借用について
 - 第1回文部省による大学図書館ヒアリングの結果について、その他

- 10.3 平成7年度第1回附属図書館広報委員会
 - 広報委員会の構成について
 - 岡山大学附属図書館概要1995について
 - ライブラリー・リフレッシュについて
 - 館報「楷」No.22の刊行・編集方針について、その他

研修

- 平成7年度事務系職員初任者研修
参加者 遠矢厚志 坂谷陽子 世戸原紀子 (4.25~4.28)
- 平成7年度大学図書館職員長期研修
参加者 川上研三 (7.10~7.28)
- 平成7年度岡山大学事務系職員語学研修(英語・初級コース)
参加者 坂谷陽子 世戸原紀子 (8.8~10.3)
- 平成7年度図書館等職員著作権実務講習会
参加者 川上研三 渡壁辰巳 本間静一郎 児玉有美子 長畑美由紀 花田貴子 佐藤純子 小橋靖子 片山麻衣子 (8.23~8.25)
- 平成7年度目録システム地域講習会
参加者 桐村洋行 遠矢厚志 岩本博子 河内紀美子 (8.29~8.31)
- 第15回人事院式監督者研修(JST)
参加者 脇本敏郎 (8.29~9.1)
- 平成7年度総合目録データベース実務研修会
参加者 木村正昭 (10.2~10.20)
- 平成7年度ILLシステム地域講習会
参加者 本間静一郎 (10.5~10.6)
- 平成7年度中国・四国地区国立学校等会計事務研修会
参加者 稲村利恵 (10.16~10.20)
- 平成7年度岡山大学事務系職員語学研修(英語・中級コース)
参加者 遠矢厚志 坂谷陽子 (10.18~12.7)
- 第6回岡山大学一般職員研修
参加者 桐村洋行 (10.24~10.27)
- 平成7年度史料管理学研修会
参加者 寺本智美 (11.6~11.11)

編集委員会から

暑い暑い夏休みが過ぎて2カ月たち、中央図書館正面の並木の紅葉が鮮やかになりました。この館報の名称に由来する、玄関東側の楷の木も紅葉が始まりました。

また、中央図書館の北西側では、新館の杭打ちが行われています。社会科学閲覧室の窓から大学裏の半田山を眺めることができるのも、あと数カ月となりました。

工事期間中は図書館利用者の方々にご迷惑をおかけしますが、ご協力をよろしくお願ひします。

岡山大学附属図書館報「楷」 No.22 平成7年11月20日

発行人 森岡祐二 編集 広報委員会 表紙デザイン・レイアウト 清水國夫
岡山大学附属図書館発行 〒700 岡山市津島中三丁目1-1 電話086-252-1111